



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第3号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

1999年6月13日号, No.3

第3号の目次

1. 「バイクを通した新しい防災の輪が広がる」 ~巻頭挨拶~
2. 図上シミュレーション訓練報告(1999/3/20)
3. ボランティアのための救護法研修会報告(1999/4/20)
4. 第2回運営会議報告(1999/5/9)
5. 分科会ミーティングから(1999/4/4, 5/9)
6. 近隣RB合同キャンプ(1999/5/22~23)
7. 山梨県地震防災訓練報告(1999/6/1)
8. 配食ボランティア参加レポート(最終回)
9. お知らせ
10. いり2のコラムVol.3
11. オフ訓練中止について / ちょっといい話 / お問い合わせは

バイクを通した新しい防災の輪が広がる

谷内太一



「ボランティア活動」と言うと福祉や地域貢献といった日頃行われている活動が思い浮かびます。このボランティア活動に共通して言えることは、活動は特別な時でもなく非日常的な時でもない、日常生活の中で行われる活動だと言うことです。

一方RB活動では、私達が活動してお役に立てるのは、極めて非日常的で特別な時なのです。それゆえ、何度も繰り返し実践していく中で、確実に役に立てる活動を模索する事はまず不可能です。

それでは私達は、今まず何をすればいいのでしょうか。

以前に聞いたこんな調査結果が、その一つを教えてください。

「災害が発生したとき、身内が思わぬ被害があった人は、救援活動に参加できていない」

「震災発災直後に一番多くの人を助けたのは、自衛隊や警察や消防署でもない、被災者自身による近所同士の助け合いであった」

このことから、大地震の際に人の役に立ちたいと願うなら、発生直後に多くの人の命を救える私達自身はもちろんのこと、身近な人も無事であることが、まずは不可欠です。そのためにはまずは普段から防災に目を向けることが必要でしょう。

そして、「バイクで何か役に立てれば！」という気持ちで集まった私達が出来たもう一つの事は、この新しい防災の輪を広げることでしょう。

でも、押しつけになっては意味がありません。これは私達RBに対してもそうですし、被災された方々に対してもそうです。

災害ボランティアは、求められているニーズに耳を傾け、被災者が善意を断れないことから起こりうる一方的な善意の押しつけの活動にならないよう、日頃から活動について考え、心がけることも重要でしょう。

3/20 図上シミュレーション訓練

報告者: 谷内太一



1999年3月20日(土) かながわ県民活動サポートセンターにおきまして、「神奈川県西部地震図上シミュレーション訓練」を「神奈川RB震災時活動研究分科会」を中心として、川崎災害ボランティアネットワーク

協議のご協力の下に開催しました。

1. 参加者

・RB関係: 神奈川RB、東京RB、千葉RB、沼津RB

一般参加: 神奈川県(2人) 兵庫県(1人)

2. 川崎災害ボランティアネットワーク代表 植山利昭氏挨拶

3. 神奈川県地震対策課 杉原英和氏講演(10:00~12:30)

(1)地震災害時の行政の応急対策活動について

(2)阪神・淡路大震災の被害状況

(3)地震の基礎知識

(4)神奈川県に影響を与える地震

4. 図上シミュレーション訓練 14:00~16:00

講師: 防災ネットワークプラン 井上浩一氏

神奈川県地震対策課 杉原英和氏

(第1部) RB活動に限定せず、個人の防災意識向上に主眼

参加者自ら3つのグループをつくり、各グループで神奈川県の地図を用意しました。各自で自分の居るところにマークを付け、それぞれ自分の居るところで被災し、発災後なにをするかということを発表をして、他の人の考えを聞くことで各自の行動を見つめるキッカケにしました。

(発表された例: 安全確保、家族に連絡を取る、火を消す、避難)

次に被害状況を予想と地図上での情報整理を体験しました。

各グループ内で協力して、震度情報から被害状況を予想し、マーカーで地図に書き込んでいき、時間がきたら各班ごとに、書き込まれた物を解説してもらいました。(内容: 道路、津波、崖崩れ、鉄道等)

<講師からの目>

RB関係者が多い事からか、自分のいるところの被害予想よりも、広域な被害予想の書き込みが多かった。特に、道路に対する書き込みが多い事が特徴的。

他の団体が混ざっていた方が、発見もあり、より良くなる。

各グループでかなり書き込み方が異なり、グループを構成する人の目的によって、情報の表し方が違う事が現れていた。

そのため、誰が見ても分かるように凡例を書き込む事をアドバイス。

(第2部) 役割分担により震災時の活動を体験する内容

(分担: 被災者 行政 RBボランティア)

各役割に分かれて各自できる限りポストイットに書き出しました。



被災者・・・何をしたいか
行政・・・何をしたいか
RBボラ・・・何をしたいか、何を
やりたいか
書き出したものに、日時を書き込
み、時間順に並べました。そのな
かで 行政の内容には、杉原氏がアドバイスをいただきました。最
後に各グル-ブ毎に発表を行い、それぞれ感じたことを発言しました。

<参加者の声>

日頃同じ目的で活動しているにも関わらず、立場を設定しただけで要
求と提供が噛み合わずなかなか解決できない。

一方的な意見の言い合いでは、なにも解決してくれない。

自分自身が、普段からなにも考えていない事に愕然としてしまった。

<講師杉原氏から一言>

地図の使い方はとても大切。

そして、日頃から行政の「県のたより」などから知る事をお願いしたい。

またいろんな本から手を差し伸べて欲しい人を知ってほしい。

<講師井上氏から一言>

役割分担をしてみるだけで、他の立場を理解する事ができると感じて
もらえた事と思う。ぜひRBの活動を考える際に利用してほしい。

そして、時間は無限にはないので、日頃から何ごとにも短い時間で処
理するように心掛けてほしい。

これからは、様々な条件をくわえてシミュレーションをしていくと良い。

また他のボランティア団体や一般市民の方々と行う事で、震災時の活
動を様々な方向から考えていく事ができる。

地震の被害を最小限にするためには、4つのポイントがある。

1. 家が壊れない(耐震診断)
2. 怪我をしない(その場に合った身の安全、家の中を安全に)
3. 火事を消す(初期消火)
4. 助け合う(町ぐるみの助け合い活動)

4/20 ボランティアのための救護法研修会

報告者: 奥村和征

4月20日午後7時から日赤の田嶋氏による救護法研修会に参加しま
した。以下、簡単にレポートします。

参加者: 約10名(うち神奈川RBは4名)ゲストは横浜西署の小林氏

田嶋氏の日赤神戸・和歌山支部への出張報告

三角巾による全身包帯

時間計測し参加者全員で行う。殆どの人が経験者なので復習。

ゲーム(?)

限られた時間で相手に自己紹介等をし、その難しさ・重要性を確認。

西消防救急隊小林氏のお話

救急技術そのものに関する講義だろう。との私の予測とはかなり異な
っていましたが、救急隊や日赤の方の話の聞ける貴重な機会であり、
充実した内容だったので次回も是非参加しようと思っています。

5/9 第2回運営会議

報告者: 山本泰彦



1999年5月9日にえびな市民活
動サポートセンターにて第2回運営
会議が行われました。この運営会
議には15名の参加があり、新規
入会者が2名いらっしゃいました。
以下に話し合われた概要です。

1、分科会での課題検討方式

現時点で可能な連絡、参集までの段階の早期マニュアル化

・9月1日の訓練に合わせて支援活動までのマニュアル化と検証

2、5月のキャンプについて

・各RBの受付訓練 現地本部をシミュレート

・イベント(他RBと合同) 5/23AM

厚木防災センタまで行き、見学。場所を知ってもらう。

・連絡: 連絡網を使用。

・中止の場合、連絡渡りきらなかったときのために現地に1人配置

3、インターネット掲示板、ML再編

・メーリングリスト(ML)を2つに(連絡用と雑談用)

・神奈川RB内部議論用掲示板の設置、プロジェクト用は適時設置

・オンラインでの議論は、MLではなく、掲示板で行う。

4、6~9月の活動予定作成

5、6月定例会議の議題

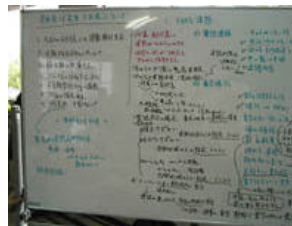
6、次回の議長選出

7、9月1日南足柄訓練に向けて

8、9月4~5日JRB全国大会について奈良RBからの案内紹介。

4/4, 5/9 分科会ミーティングから

報告者: 山本泰彦



分科会ミーティングの中で特に、震
災時活動検討(99年5月9日まで)
で出てきた神奈川RB震災時活動
の流れ(案)の項目と主な要点をま
とめます。現状の体制でできること
を挙げてみました。

1、発災~被災地までのアプローチ

1-1、第1報入手 状況判断、被災状況把握

1)個人の家族、職場、地域の状況を確認。

2)神奈川RBとしての活動有無の判断

代表副代表に連絡が取れない場合、地区リーダーがまとめて活動

・神奈川近辺で震度6弱以上、電話連絡が不可能の場合、各自の判
断で、発災が昼間であれば即日、夜間なら次の日の昼間に参集。

1-2、参集時刻と集合場所

参集時間: 昼間とする。

集合場所: 1-4に示す3ヶ所。

1-3、神奈川RBメンバー所在確認

・メンバー活動状況確認

・メンバーの安否確認

1-4、各活動拠点の役割(神奈川県西部地震を想定)

長谷寺(事務局加藤宅)

役割: 偵察隊 前線基地設置のための活動拠点

えびな市民活動サポートセンタ

役割: 県西部地震における神奈川県東部からの支援活動の基地
かながわ県民活動サポートセンタ

役割: 県西部地震における他都県RB受け入れと後方支援

まずは本部(外部との窓口)を作り、なにが要求されているか集める。

2、被災地周辺の状況把握、前線基地設置

2-1、偵察隊第一陣 3人一組

役割: 前線基地までの道路状況把握(ルート確保)と安全性調査

1999年7月予定の訓練で実際に県西部地域に行き仮の前線基地候補を決める。

2-2、前線基地の役割

支援活動によって異なる。

- ・物資運搬が主の場合
- ・被災地での活動が主の場合

2-3、基地に詰めている「人」の役割

- ・資機材の管理
- ・外部からの情報整理、神奈川県RBからの情報発信、各基地間の情報交換、状況把握

3、支援活動内容

99年後半課題 災害弱者支援の展開

県、社協からヒアリングなどで需要の収集、支援活動の決定。

4、撤収

今後検討。

5/22~23 第2回近隣RB合同キャンプ

報告者: 山本泰彦



1999年5月22日~23日、神奈川県津久井郡の青野原オートキャンプ場において、第2回近隣RB合同キャンプを行いました。

昨年10月に清水市で行われたキャンプに続く第2弾として企画された今回のキャンプでは関東、東海地域のRBから約40名の参加がありました。現地では募集訓練も兼ねて、実際にボランティア登録を模擬した受付を行ったり、誘導係と本部の間を無線でつないだり、実験的なものも行われました。

キャンプ期間中は晴天に恵まれ、キャンプ場までの道のりを各RBで走行訓練やルート探索として活用していただけたようです。

夕食の頃から各RBの垣根を越えた交流会が自然に始まりました。昨年の全国大会で会った人や掛川の総合防災訓練、その他、いろんな訓練やイベントで一緒だった人との再会



や新たな交流ができました。

また焚き火を囲み、RBに対する様々な思いをぶつけ合ういい機会にもなりました。

このキャンプでの交流をきっかけに神奈川県RB内外問わず、さらに活

発な活動、議論ができることを期待します。

2日目は神奈川県厚木市にある厚木防災センターの見学に向かいました。防災センターまでのルートはあらかじめ決めてあり、地図を見ながらキャンプ場から防災センターまで向かうというものでした。



厚木防災センターでは、簡単な説明の後、地震体験コーナー、暴風体験コーナーをまわり、さらに消火器体験、煙体験を経て、最後に「阪神淡路大震災に学ぶ」という映画を見て見学を終りました。

この見学には、神奈川県RBをはじめ、埼玉RB、千葉RBから合計15名の参加があり、皆さん熱心に見学や体験をされていました。面白かったのが、暴風体験。風速30m/sを体験できるのですが、毎週日曜日の午後3時から、暴風に加え、50mm/hの土砂降りも加わった暴風雨体験もできるとのことです。ぜひお試しあれ。

6/1 山梨県地震防災訓練報告

報告者: 中島信義

6月1日(火)午前9時より勝沼中央公園で実施されました。

・RB参加概要

山梨RB11名、バイク7台(GL4台、オンロード1台、オフ車2台)

東京RB(国府田さん、オフ車)、神奈川県RB(中島、赤パイ)

以上、総勢13名とバイク9台の参加は関係者の注目の的でした。

・活動内容

自衛隊のヘリで届けられた医薬品の会場内、日赤山梨本部への搬送訓練です。会場内では参加各部隊の救援機能と機材の詳細な説明が行われ、参観者には理解しやすい内容でした。特に目に付いた点は参加各部隊がバイクを利用していたことです。

NTT山梨・オフ車3台+ON 1台(災害復旧用)

山梨県警・トライアル2台(全県では10数台を所有)

自衛隊(北富士特科連隊・滝口隊長車1台・・・これは6輪駆動指揮本部車先導)

今後バイクは関係機関での導入がかなり増加すると思われます。

神奈川県RBバイク分科会も関係機関のバイク隊との連携、共同訓練などこれからの活動方針の検討テーマにひとつに加えられるはいかがでしょうか。山梨RBの赤池代表、雨宮事務局長、小林隊長ほか皆さんの親切な受入態勢に感謝し、これからも国府田さんを軸に関東近隣の合同キャンプ、訓練に参加のお誘いをしましたところ快諾を得ました。なお、訓練会場の勝沼より山梨RB事務局(甲府市)に帰還の途中、軽自動車同士の衝突で1台が転倒した現場に遭遇、私と国府田氏の4輪2台は救急救命の確認をしに非常停車しましたが幸いに1名のみ軽い右足の打撲で大丈夫との話のため事務局に引き上げました。事務局での昼食と反省会、懇談会を2時間弱行い解散しました。

配食ボランティア参加レポート(最終回)

報告者: 入佐俊明

弁当の配達は、近所の人達のボランティアで行われています。
配達スタッフは、その時々で変わります。
そのため、配達される側のばーちゃんにとっては、本当にこの人が弁当配達のスタッフなのか分からない事もある可能性も。
そこで予算が取れたので目印になるジャンパーを作る事になりました。
細かい字を書いても見えにくいので、色を覚えてもらう様にするためはっきりした色を選択し作られました。そして配達の際には、全員がそのジャンパーを着て配達する事になりました。
また、配達する時間も、16時過ぎでは早いという、意見があったので、少し遅らせて配る事にしました。
弁当を持って行くと、ジャンパーよりも顔を覚えていくくれるばーちゃんもいます。これはちょっと嬉しい。
ただ、このジャンパーと同じような色合いの物を着て、悪さをしようと思えば出来てしまうので、それは、ちょっと心配です。
やはり、顔を覚えてもらえる方が安心だし、人との触れ合いという感じで、暖かい感じがするものです。
でも、この弁当配達も、いり2の転勤により、参加出来なくなってしまいました。ちょっとした時間で、数人のばーちゃん達と会うだけですが、できなくなるとちょっと寂しいです。
こんな活動は、いろんな所でやっていると思うので、興味のある方は、各市や区で発行している情報誌や役所に問い合わせしてみてください。各地域毎に、やり方が違うと思いますが、弁当を渡して、安否確認するという事は何処でも一緒だと思います。
ボランティアです。義務ではないので、空いている時間でちょっと覗いてみるのも良いと思います。

お知らせ

神奈川R Bお気楽ツーリング「走ろう会」6月ツーリング案内

日時: 6月27日(土) ~ 28日(日)

集合: 6月27日(土) 8:30 中央自動車道藤野PA集合!

目的: 親睦一泊ツーリングin 清里

宿泊先: 清里にある神奈川R B副代表中島氏別荘「なかじま山荘」

連絡先: 太田 E-mail: ma_chan@mvh.biglobe.ne.jp

Tel: 090-4817-3066 / 045-894-8742

「走ろう会」は、ボランティアもなーんにも関係ない、神奈川R B親睦の為のツーリング企画です。神奈川R B以外の友達・家族も誘って、気楽に参加して下さい。(荒天中止)

赤十字救護奉仕団によるボランティアのための救護法研修会案内

日時: 毎月第3火曜日夜7時~9時

場所: かながわ県民活動サポートセンター7階

内容: 蘇生法 止血法 包帯法 運搬法 危険予知トレーニング等

費用: 無料(資料コピー代は実費負担)

毎月恒例の救護法研修会です。ふるってご参加ください。

神奈川R B内規承認の件

神奈川R B内規案は6月6日(日) 定例ミーティングで承認されました。定例ミーティングの詳細は会報次号にて報告します。

いり2のコラムVol.3

いり2(入佐俊明)

「ボランティアとは？」

阪神淡路大震災からボランティアという意味が変わってきたように思える。

一昔前は、専門的な知識が必要で誰もが出来るような物ではない様なちょっと敷居の高いものだったと思う。

しかし震災以降、多くの人がボランティアとして神戸に集まった。それこそ、老若男女、誰でもが自然に集まって大きな力となった。その時は、

「何も出来ないけど、少しでもお手伝いが出来たらいいな」

という気持ちを持った人達が集まったと思う。

いり2はそれがボランティアだと思う。

困っている人がいたら、声をかけるとか、お手伝いすると、そんな感じで良いのではないかな?

最初から「ボランティアするぞ!」と力んでいたら、きっと長続きはしないだろう。

まずは近くにいる困っている人に声を掛ける事からでいい。

いり2のコラムVol.4予告「企業とボランティア」

乞う御期待



オフロード走行訓練中止について

山田泰 岩崎雅弥

4月24日に予定されていましたがオフロード走行訓練は、荒天のため中止せざるを得なくなってしまい、非常に残念な思いが残りました。準備にあたり、快く車両等をご用意頂いたホンダ東日本の方々には御礼申し上げます。

ちょっと良い話

伊藤浩章

社内で実施している、風土改革プロジェクトの一取り組みである「ベスト社会人」なる賞をいただきました。受賞理由は、「防災ボランティアとして地域に貢献」です。皆様のおかげで援助のおかげであります。ありがとうございます&これからも宜しくお願いいたします。

お問い合わせは

神奈川R B事務局

郵送先: 〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Tel: 0462 47 7884(事務局加藤宅)

Fax: 0462 47 9539(事務局加藤宅)

URL: <http://cools.com/kanagawarb> E-mail: 52379663@people.or.jp

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川R B会報担当 松井嘉夫、山本泰彦